

元国際第1077号

関税割当公表第29号

令和2年度のフィリピン産生鮮パイナップルの関税割当てについて

経済連携協定に基づく農林水産省の所掌事務に係る物資の関税割当制度に関する省令（平成17年農林水産省令第12号。以下「省令」という。）第6条の規定に基づき、「経済上の連携に関する日本国とフィリピン共和国との間の協定」に基づく割当ての対象となるパイナップル（1個の重量が900グラム未満のものとし、生鮮のものに限る。）（以下「フィリピン産生鮮パイナップル」という。）の関税割当てに関する事項を下記のように定めます。

令和2年2月17日

農 林 水 産 省

記

第1 割当対象物品、割当数量及び通関期限

1 割当対象物品

フィリピン産生鮮パイナップル（関税定率法（明治43年法律第54号）別表第0804.30号の1に掲げる物品のうち1個の重量が900グラム未満のもの（全形のもので皮を除いていないものに限るものとし、冠芽があるかないかを問わない。））

2 割当数量 1,800トン

3 通関期限 令和3年3月31日

第2 関税割当申請書受付の担当課

農林水産省生産局園芸作物課

第3 関税割当証明書交付の担当課

農林水産省大臣官房国際部国際経済課

第4 関税割当申請書の提出期間及び提出時間

1 提出期間

次に掲げる期間とする。

ただし、(2) から (4) までに掲げる期間については、それ以前の期間に行われた申請に対する割当てにおいて生じた残量及び各期間の開始日の前々週の火曜日（火曜日が行政機関の休日の場合はその直前の平日）までに返納された関税割当証明書における残存数量の合計が1トン以上ある場合にのみ関税割当申請書を提出することができる。1申請者当たりの申請数量等については、第7を参照。

(1) 令和2年3月10日（火）から同年3月16日（月）まで

(2) 令和2年6月23日（火）から同年6月29日（月）まで

(3) 令和2年10月6日（火）から同年10月12日（月）まで

(4) 令和3年1月19日（火）から同年1月25日（月）まで

なお、(2) から (4) までに掲げる期間における割当ての実施の有無及び実施する場合の割当数量は、各期間の開始日の前の週の火曜日（火曜日が行政機関の休日の場合はその直前の平日）に当省ウェブサイト

（http://www.maff.go.jp/j/kokusai/boueki/triff/t_phl/index.html）

に掲載する。

2 提出時間 午前10時から正午まで及び午後2時から午後4時まで

第5 関税割当申請者の資格

生鮮パイナップルの使用、販売若しくは輸入を事業目的とする法人又はこれらの事業を行うことが確実であると認められる個人事業者であって、法人においては登記事項証明書の目的欄、個人事業者においては個人事業の開業・廃業等届出書の事業の概要欄において、割当対象物品の使用、販

売若しくは輸入を行う事業者であることが確認可能な記載のあるものに限る。

第6 関税割当申請書に添付すべき書類

- 1 第4の1の(1)の期間に申請する場合であって、令和元年度に割当実績がある場合は、割当を受けた全ての関税割当証明書（原本）。なお、関税割当証明書の割当数量を全て使用した等により既に返納した場合を除く。

ただし、残存数量があり、引き続き輸入のために使用する場合は、当該関税割当証明書の写し及びその輸入に係る関連書類（※）の写し各1通（及び、同書類が日本語以外の言語で表記されている場合には、その日本語訳1通）を添付する。

（※）令和2年3月末までに輸入することが確実であることを確認できるもの。

- 2 令和元年度の月別のフィリピン産生鮮パイナップルの輸入通関実績（令和2年3月末見込みを含む）数量等一覧表（別記様式1）
- 3 令和2年度の月別のフィリピン産生鮮パイナップルの輸入計画一覧表（申請時までの輸入実績も含む。）（別記様式2）
- 4 法人の登記事項証明書（個人事業者にあつては、個人事業の開業・廃業等届出書の写し（税務署受付印があるもので、個人番号部分が複写されない措置を講じたもの。））

ただし、令和元年度における割当実績を有する者であつて、申請時点において4の書類の内容に変更のないものは、4の書類の添付を必要としない。また、本公表により2件以上申請する場合であつて、1から4までの書類の内容に変更のないものは、2件目以降は1から4までの書類の添付を必要としない。

第7 割当基準

1 第4の1の(1)に掲げる期間の場合

申請者に対する割当数量は、次のとおりとする。ただし、1申請者当たりの申請数量は180トンを上限とする。

(1) 申請数量の総計が第1の2に掲げる割当数量以下となる場合

申請数量を割り当てる。

(2) 申請数量の総計が第1の2に掲げる割当数量を超える場合

申請者の申請順に第1の2に掲げる割当数量に達するまで申請数量を割り当てるものとする。

ただし、申請期間内に申請した者は同着とみなし、令和2年3月19日(木)に当省において抽選により申請順位を定め、上位の者から割り当てる。

抽選の実施については、申請期間終了後に当省ウェブサイト

(http://www.maff.go.jp/j/kokusai/boueki/triff/t_phl/index.html)において公表する。

2 第4の1の(2)から(4)までに掲げる期間の場合

申請者に対する割当数量は、次のとおりとする。ただし、(2)及び(3)に掲げる期間においては、1申請者当たりの申請数量は180トンを上限とするが、(4)に掲げる期間における1申請者当たりの申請数量には上限を設けない。

(1) 申請数量の総計が別途当省ウェブサイトに掲載する割当数量(第4の1参照)以下となる場合

申請数量を割り当てる。

(2) 申請数量の総計が別途当省ウェブサイトに掲載する割当数量(第4の1参照)を超える場合

申請者の申請順に別途当省ウェブサイトに掲載する割当数量に達するまで申請数量を割り当てるものとする。

ただし、申請期間内に申請した者は同着とみなし、別途抽選により申請順位を定め、上位の者から割り当てる。

抽選の実施については、申請期間終了後に当省ウェブサイト
(http://www.maff.go.jp/j/kokusai/boueki/triff/t_phl/index.html
)において公表する。

- 3 令和元年度に割当てを受けた者のうち、当初割当てを受けた数量と第6の1において提出された関税割当証明書等によって確認された輸入通関数量から消化率を算出（第6の1において添付された関税割当証明書の写し及びその輸入に係る関連書類の写しによって令和2年3月31日までに通関する見込みの数量も輸入通関数量に含めるが、令和2年4月1日までに当該関税割当証明書を提出することとし、これを確認した結果残存数量があれば再度消化率を算出）し、その消化率が9割未満の者は、第4の1の(1)から(3)までに掲げる期間において、申請数量（※）の合計は令和元年度の輸入通関数量を限度とする。ただし、第4の1の(4)に掲げる期間においては、第7の2の規定に基づいて申請をすることができる。

なお、令和2年1月7日（火）までに返納された関税割当証明書の残存数量は、消化率計算の際においては、当初割当てを受けた数量に含めないものとする。

（※）抽選により減じられた数量は申請数量に含めない。

第8 関税割当証明書の交付及びその停止

関税割当証明書の交付は、次のいずれかに該当することについて、農林水産省がその事実を確認した日の翌日から翌年度の末日までの期間内は停止するものとし、当該期間内の割当てに係る関税割当申請は受け付けない。

- 1 申請者が関税割当てに関して法令違反が確定したとき。
- 2 申請者が本公表に違反したとき。

- 3 申請者が虚偽の申告又は報告（省令又は本公表に定める申請書、関税割当申請書に添付すべき書類若しくは報告その他の関税割当てに関する書類）をしたとき。

第9 報告

割当てを受けた者は、関税割当てに関して法令に違反した場合には、農林水産省に速やかに報告するものとする。

第10 その他

- 1 関税割当申請書の提出部数は2通（省令第1条）とし、その他の添付書類の提出部数は1通とする。

また、割当数量の分割を希望する場合の証明書分割申請書の提出部数は2通（省令第3条）とする。

- 2 関税割当申請書等の記載、関税割当証明書の記載事項の変更及びその他の事由による関税割当証明書の再交付等に関する手続については、経済連携協定に基づく関税割当申請書等の記載要領について（平成17年4月1日付け16国際第1297号）によるものとする。

- 3 割当てを受けた物品の輸入を希望しなくなったとき又は関税割当証明書の期間満了日を経過したときは、関税割当証明書を速やかに返納しなければならない（省令第4条）。返納に当たっては、割当てを受けた者又は返納の委任を受けた者が第2に掲げる担当課に直接持ち込み又は郵便書留等の追跡可能な送付方法によるものとする。

なお、関税割当証明書を返納する際、割当てを受けた物品について輸出入・港湾関連情報処理システム（NACCS）の申告添付登録（MSX）を利用した者は、関税割当証明書システム管理終了結果情報の原本又はその写しを添付するものとする。

- 4 令和2年度に割当てを受けた者のうち、当初割当てを受けた数量と同年度に割当てを受けた全ての関税割当証明書によって確認された輸入通

関数量から消化率を算出し、その消化率が9割未満の者は、原則として、令和3年度においては、申請数量（※）の合計は令和2年度の輸入通関数量を限度とする。なお、令和3年1月5日（火）までに返納された関税割当証明書の残存数量は、消化率計算の際においては、「当初割当てを受けた数量」に含めないものとする。

（※）抽選により減じられた数量は申請数量に含めない。

5 関税割当証明書の有効期間については、関税割当証明書の「期間満了日」の欄に記載された日までとし、当該有効期間の延長は行わないものとする。

6 関税割当てに当たり必要な書類の提出を別途求めることがある。

第11 関税割当てを受けた者の氏名等の公表

農林水産省は、本公表に基づき関税割当てを受けた者の氏名（名称）及び住所を、農林水産省のウェブサイトにおいて公表する。